

令和4年度第2回伏見区基本計画推進区民会議 会議録

日時 令和4年12月12日（月）午前10時～11時

場所 伏見区役所 1階ホール

1 議題

伏見区役所の令和4年度の取組実績及び予定

- (1) 三所共同事業について（伏見区区民活動支援事業，伏見連続講座）
- (2) 区役所・支所の主な取組（伏見区役所，深草支所，醍醐支所）

2 発言要旨

伏見区長の開会あいさつ

- ・ この3年間のコロナ禍において、地域のつながりが希薄になっている中で、皆様方はそれぞれの立場で活動を続けてこられ、その支援に対して地域のたくさんの方から感謝の声をお聞きしている。
- ・ 次第の右上に「皆でつくるすむまち伏見」のキャッチフレーズとロゴマークを掲載している。先月、伏見区社会福祉協議会主催の社会福祉大会で橋爪先生が講演された際に紹介されたが、ご存じない方もおられたので改めてお話しさせていただく。
- ・ ロゴマークは伏見区政70周年を記念して作成されたもので、伏見の頭文字「F」を3つ重ねたものになっている。キャッチフレーズの「すむ」には3つの意味がある。1つ目は、京都市内で人口最大の区である伏見区に「住む」。2つ目は、川の流れが「澄む」、豊かな環境とともにある伏見の特徴を表すもの。そして3つ目は、暮らしや働く場が地域内にあり、用事が伏見区内で「済む」という意味である。この視点は現在も大事にしている点であり、区基本計画にも表れている。
- ・ これからも伏見区全体で、だれ一人取り残さない地域を目指して取り組んでいきたいと思うので、御支援、御協力をお願い申し上げます。

橋爪座長の開会あいさつ

- ・ コロナの第8波と言われているが、第7波までとは異なり、通常の生活をしながら対応していく段階に入ってきている。国内観光客が戻り、これから海外観光客も戻ってくると思われるが、再度オーバーツーリズムの問題が起こらないようにしなければならない。市民生活と観光客、観光事業者の調和が大事になってくる。この会議でも、こうした視点からも御意見をいただき、課題が出てくれば、観光客の受入れ方などについても議論していければと思う。
- ・ また、私が招致活動にかかわった2025年の大阪万博が近づいており、これからさらに盛り上がっていければと思っている。京都市・京都府でも連携して議論が始まっているが、2025年にどのような京都市に、さらに伏見区になっているかを考える必要がある。これから文化庁の移転があり、2024年には京都の神社仏閣の世界遺産登録から30年を迎えるので、歴史や文化を生かしたまちづくりを考えていければと思う。
- ・ 伏見について言えば、淀川を行き来する船を復活させようと、国が力を入れている。伏見港から大阪市内まで、昔ながらの船旅を楽しんでもらえるようになることで、伏見はかつて港町であり、淀川が物流の幹線であったことを思い起こしてもらえればと思う。

- ・そして、2025年は伏見区基本計画の最終年次であり、その先に向けた区基本計画も考えていかなければならない。あわせて伏見区100周年も近づいてくる。先ほど紹介のあった、住みやすいまちをつくるというキャッチコピーは、20年余り前につくられたが、先見性があったと思う。町に暮らすこと、住むことが大事ということを中心に、本日も様々な視点から議論していただければありがたい。

意見交換（三所共同事業について）

橋爪座長

- ・伏見区区民活動支援事業、伏見連続講座の両事業とも、長く継続しており、コロナ禍でもしっかり活動いただいている。伏見区区民活動支援事業について、審査委員長を務めていただいている加藤先生から御意見ををお願いしたい。

加藤委員

- ・今年度も、様々な工夫をこらしたユニークな活動が展開されている。コロナ禍だが皆様のお力添えや努力により、多くの市民活動に応募いただくことができ、大変ありがたい。
- ・次の募集にも関連するが、待ち受けるのではなく攻めの募集、様々な地域力を生かした取組を募っていかなければと思う。地域には現在3つの課題がある。自治会・町内会などの後継者の問題、脱会・退会者の増加、見守るべき人が増えているという問題である。そのような状況に対して、テーマ型のNPO組織やボランティア活動を意識的にクロスさせる必要がある。
- ・市政協力委員のみなさんが仲介されて、防災など地域活動も様々な工夫をされている。そのような活動とテーマ型の活動の連携、大学生や高校生も含めた連携ができれば良いし、若い人などは広報誌作成などのアイデアも出してくれるので、そうした部分で活躍できるということを伝えていくことも必要と思う。また応募書類の作成が難しい団体などもあるので、応募に関する説明会を開催するなど、攻めの募集をしてもらえればと思う。

橋爪座長

- ・今年度から、若者活躍、地域経済活性化をテーマとした新たな枠も設定されたので、若者へのアピールもしてもらえればと思う。

意見交換（区役所・支所の主な取組について）

小倉（誠）委員

- ・伏見港は、私の住んでいる南浜学区にあり、最近河川でのイベントが多くなってきており、PTA、おやじの会、少年補導委員会では夏期パトロールを行った。これから子どもたちが水辺に触れる機会が増えると思うし、楽しいイベントを実施するのは良いことだが、その一方で、今年には宇治川での水難事故もあり、水辺には危険もあるということをしつかり示しながら進めていただきたい。
- ・また、ライトアップイベント時に大人が立入禁止の場所で堂々と撮影していた。子どもが見たらどう思うのかということも考えて、大人も規範意識を持って行動していただきたい。そして、多くの人が集まる、楽しいイベントにしてほしい。

橋爪座長

- ・ とても大事な意見だと思う。
- ・ その他、本日お越しいただいている方から団体の活動紹介などをしていただければと思う。

岩井委員

- ・ 醍醐コミュニティバスは、来年2月に運行開始から20年を迎える。乗客数も、現在延べ993万人であり、近いうちに1000万人に到達すると思う。そのため、20周年と1000万人到達を記念する行事を計画している。
- ・ 醍醐コミュニティバスは、行政からの補助をもらわず、地域住民と地域事業者の協力を得て設立・運行してきた。コロナ禍の影響は心配であったが、地域事業者の皆様にも継続して応援していただき、地域に根差したバスとして地域の方々に喜んでもらっている。これからも永続的に走らせていきたい。
- ・ 役員一同は毎月会議をして、運行について考えるとともに、様々な要望への対応なども行っている。これからも皆様のさらなる御支援、御指導をお願いしたい。

村井副座長の閉会あいさつ

- ・ 伏見区にとって橋爪先生に座長をしていただいているのはとても心強く、改めてお礼を申し上げたい。また座長をはじめ、委員の皆様には、これからの住みよい伏見に向けて、御意見をいただき、誠にありがたい。
- ・ 今日の会議では、伏見区で進行中の事業の報告があったが、伏見区基本計画の実現に向けては、どの事業も重要であり、引き続き、充実した取組となるよう皆で頑張っていきたいと思う。
- ・ 伏見区は西日本最大級の行政区であり、これからの伏見区を、住んでいて幸せを感じる、住んでよかったと思ってもらえるようにしていきたい。
- ・ 年末年始が近づき慌ただしくなっているが、新しい年が伏見区にとって良い年となるように、改めてここに御出席の皆様と一緒に取り組んでいきたいと思う。